

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970400354		
法人名	医療法人社団 桑崎会		
事業所名	グループホーム エルーセラ		
所在地	佐野市免鳥町496番地		
自己評価作成日	平成22年9月22日	評価結果市町村受理日	平成22年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/infomationPublic.do">http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/infomationPublic.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 栃木県社会福祉士会
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルワーク共同事務所内)
訪問調査日	平成22年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>◎エルーセラとは、ギリシャ語で「自由」と言う意味なので、1500坪の広い敷地内の中で毎日、草などを眺め散策されている。</p> <p>◎毎月第2・4火曜日の昼食はお寿司を購入している。</p> <p>◎毎月第3金曜日の昼食はほぼ全員の好みを聞き、献立を考えバイキングを行なっている。</p> <p>◎各館での違いはあるが、外食・誕生会・草餅作り・よもぎ団子作り・エルーセラの桜の開花時には芝生の上や敷地内で、昼食を楽しまれている。</p> <p>◎8月28日に納涼祭をおこなった。地域・家族・ボランティア等総勢129名が参加し、フラダンス・民舞等で交流を深めながら楽しんだ。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1500坪の広い敷地は芝生が敷き詰められ遊歩道が整備され、入居者はいつでも散歩を楽しみ、ユニット間を自由に行き来できるようになっている。建物は隅々まで掃除が行き届き、四季折々の壁面装飾やお花が飾られ明るく清潔感のある環境が整えられている。食事は全て手作りで、入居者の好みを聞きながらお寿司やバイキングを定期的に取り入れるなど、食を楽しんでいる。一人ひとりの職員は、理念に基づき自分たちのしなければならぬことを良く理解し、目配り気配りの中で、適切な言葉かけにより、利用者の目線にたったケアが行われている。また認知度の高い利用者も多いが、おむつに頼らない介護やADLを下げない支援が行われている。利用者家族の協力を得ながら定期的な外出支援は行われているが、より日常的な継続的な外出支援を期待したい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームエルーセラ

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	エルーセラ独自の理念は見やすい場所に掲示し、日々取り組み実践している	「誠意を持って接する」「個別のケアを重視する」「日々穏やかに過ごせるように支援する」という独自の理念を玄関など解りやすい場所に掲示し、職員一人ひとりが常に理念を念頭に置きながら支援が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動に参加することは難しいが、グループホームの納涼祭には地域の皆様が大量参加され、親睦が深まった	利用者の百歳のお祝いに、地域の方達がおどりの会を開いて祝ってくれる。町内の運動会にも招待され、いける利用者が参加して模擬店などを楽しんでいる。ホーム主催の納涼祭には多くの地元の方が来て下さり、双方向の交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座を行なった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議を持つ事により、ご家族様や地域の皆様等と話し合いを行い、意見や希望を取り入れている	会議は、利用者、利用者家族、地域住民の代表、市職員で構成され、二ヶ月に一度実施している。活動や状況の報告が主であるが、地域に対する情報発信方法などについての意見などももらっている。回を重ねるうちに地域の方達にも浸透してきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者のアドバイスを受けながら、サービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市内のグループホームの代表として、市の包括支援センターの会議に出席している。市から、困難事例の対応を要請されることもあり、緊密な連携の元、市の中心的グループホームとしての役割を担っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なわないと言う事を全職員が認識しており、身体拘束のないケアを行っている	身体拘束防止マニュアルが整備されており、二ヶ月に一度定期的に勉強会を実施している。駐車場側の門は施錠されているものの、1500坪の敷地は遊歩道が整備され自由に散策出来るようになっており、三つのユニット間の行き来も自由に行える。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を持ち、話し合いの場を設けている		

グループホームエルーセラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の判断に任せている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族が理解や納得のいくまで、分かりやすく十分な説明を丁寧に行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置。より良いケアを目指し、利用者からの意見などその他迅速に適宜対応している	意見箱は設置されているが、利用者や家族から直接要望を受ける関係性が作られており意見箱の利用はない。寄せられた意見はその都度改善されている。運営推進会議も家族意見が寄せられる良い機会になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が優しい気持ちで接する事が出来る様に、悩み事やストレスを解消する事が出来る様心掛けている	日々の業務の中で、職員の意見や提案を聞く機会が保証されており、自由に意見を言い合える環境が作られている。管理者は職員が病気の時は充分休ませる等、職員の気持ち良く働けるよう配慮がされており、職員も意欲的に仕事に取り組んでいることが聞き取りからも感じられた。	定期的に勉強会や研修会が行われているが、リスクマネジメントの面からも、記録として残すような工夫を期待したい。幹部会議のようなホーム毎にケアに携わる人が自由に話し合える会議の場を設けることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	段階に応じた研修を受講し、その内容を全て職員に伝えている。そして、職員の勤務状態等も常に把握している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員への確に助言出来る様に定期的に勉強会は行なっている。また、研修は交代で受講している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	必要に応じて交流の機会を持っている		

グループホームエルーセラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴する姿勢をとり、安心して訴えられるように落ち着いて聴くことを大切にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	誠実な態度で接し、何事も気兼ねなく話せる雰囲気を作り、優しく傾聴している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望を聞き、健康状態など吟味しながら分かりやすく説明している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で良い点を見出し、一緒に楽しみ助け合って日々暮らせる様にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や本人の意見を尊重し、気兼ねなく何でも気軽に話し合えるようなアットホームな雰囲気の中で、一人一人が楽しく生活出来る様にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の希望に添って対応している	なじみの床屋さんや、「あそこの食事がしたい」などの要望は、家族に伝え対応してもらっている。一人暮らしの方などは買い物帰りなどに定期的に郵便物を取りに行ったりして馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が生活意欲を向上し、仲間同士で支え合える生活が出来る様に支援している		

グループホームエルーセラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談に応じて対応している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の求めている事を把握し、対応している	アセスメントが細かくされ、入居者だけでなく御家族の意向もきちんと把握されている。職員の目配り声かけが細部まで行き届いており、一人ひとりを大切にされたケアが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者主体の目標を立て、具体的な内容を決め、サービスを提供支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が意見を取り入れて、暮らしやすいように促し援助している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に入居者・家族の意見を反映し、相談しながら作成。介護計画期間を明示し、その期間が終了する際に見直しを行い、状態変化に応じて適宜見直しを行なっている	介護計画に利用者・家族の意向を詳細に聞き取り、必要に応じてドクターの意見を聞きながら毎月行われるサービス担当者会議で話し合い、それらの情報を元に3ヶ月に1回計画の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人一人の特徴や変化を具体的に記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人一人が自分で決めたり、家族の要望を聞いたり、個々の思いを大切にしながら日常的に取り組んでいる		

グループホームエルーセラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食・お花見・行事等で、ボランティアの方の歌や踊りなどを一緒に楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には家族又は職員が同行し、必要時には家族へ報告し(面会時)、心身の変化や異常発生時に対応している	利用者、家族の希望を尊重し、家族又は職員が同行してかかりつけ医の受診を支援している。家族からの希望によりかかりつけ医を変更する場合も、施設長などにも相談しながらかかりつけ医の選定を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に状態観察を行なっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、個々に応じて病院関係者との情報交換や相談に努め、退院の連絡の報告を受けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全職員が状態を把握し、変化時の対応の話し合いを持ち、かかりつけ医受診時には家族と相談の上方針を決めている	「重度化した場合の対応に係わる指針」が示されており、全職員が利用者の状態や家族の意向を常に把握し、重度化した場合の対応を話し合っている。現状では医療的管理には限界があるが、家族やかかりつけ医と相談しながら看取りについても考えていきたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	怪我等の緊急時に職員は、応急手当を行なうことが出来る様に勉強会などを行なっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員間では、連絡網にて協力し合える環境ができています。地域の方にも協力が得られるように取り組んでいる	年2回避難訓練を実施、今年度は夜間想定での避難訓練を実施した。運営推進会議を通じて地域の人たちにも災害時の協力を呼びかけている。IHの導入やコンセントの清掃に心がけ平常時から防災に心がけている。備蓄も行われている。	

グループホームエルーセラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、入居者一人一人の留意事項を職員全員が把握し、言葉かけや対応に気をつけている	職員は、利用者一人ひとりの留意事項を把握した上で、自然な形で言葉かけがなされている。コミュニケーションの取りづらいため利用者さんに対しては態度や行動から判断し、判断が難しいときはリーダーに相談しながらケアに当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人一人の性格に合わせ思いや希望を表現される様に働きかけ、自己決定出来る様な場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人が自由に自分のペースを保ちながら暮らせる様支えている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添った髪形を聞き散髪を行なう。本人・家族の強い希望で、行きつけの美容室があれば、家族の協力を得て行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のレベルに合わせ、献立の工夫をしながら準備・片付けの声掛けをしている	その日の献立が毎日ホワイトボードに手書きで掲示され、手作りを心がけている。寿司の日やバイキングを取り入れ食事が楽しみなものになるよう工夫されている。やりたい方には、目配り気配りをしながら食事の準備や片付けの手伝いに入ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士の指示のもと、毎食バランスの取れた食事を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう口腔の清潔を日常的に支援している。歯磨き・義歯洗浄・出血のチェックを毎日行なっている		

グループホームエルーセラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の誘導・介助の確認・失禁の対応は、不安や羞恥心・プライバシーに配慮して行なっている	一人ひとりの排泄パターンをチェックして、誘導支援に心がけ、おむつをかけないケアに心がけている。おむつは個人持ちなので、経済的な負担が少なくなったと御家族からも感謝されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に配慮して、飲食物の工夫や排便の誘導・運動への働きかけなどを管理栄養士とも話し合っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	無理をせず一人一人個別の入浴の対応をし、清潔保持に努めている	一日、四人ぐらい、最低でも週に2回は入浴してもらっている。毎日入浴の人もある。一般浴で対応、浴槽の跨ぎ、洗身介助がマンツーマンで行われている。入浴の順番も時々変えるなど不公平にならないような配慮もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人の睡眠パターンを把握し、個々の生活リズム作りをしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が使用する薬の目的や副作用・用法・用量を把握し、医師の指示の元服薬出来る様管理しながら症状の変化を常に確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩・テレビ鑑賞・洗濯物たたみ等、入居者一人一人が楽しみながらホーム内の役割が出来る様支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物・散歩等は適宜行い、外食・お花見等は本人の希望を聞きながら行なっている	御家族による外出支援の他、外食や花見など利用者の希望を聞きながら実施している。多い方は月5回ぐらい外出しているが、個人や季節によりバラツキがある。ホームの敷地内やユニット間の出入りは自由に行われている。	利用者家族の協力を得ながら定期的な外出支援は行われているが、買い物や散歩などより日常的、継続的な外出支援を期待したい。



グループホームエルーセラ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望により対応している。全入居者は所持していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力を得て個々に行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の草花の種をまき、ホール等のディスプレイを職員と入居者で共に行い、季節感を出している	ホールは、広々と開放感のある作りで、採光や空調にも工夫が見られる。四季折々の壁面装飾が職員や入居者によって作られ季節感を出している。掃除が隅々まで行き届き、引き戸に指が挟まれないよう工夫や、換気扇やコンセントの掃除を徹底するなど安全面への配慮もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外に食堂兼ホールにテレビを設置。他館にも自由に行き来ができ、過ごせるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使いなれた生活用品などを持ち込み、安心して過ごせる様になっている	居室には、個人のテレビ、冷蔵庫、ソファ等や馴染みの小物が持ち込まれ、自分の作品、写真や花などを飾り、心地よく過ごせる工夫がなされている。	小物的なもので個別化がなされているが、窓のカーテンの色を変えたり、馴染みのものの持ち込みなどより一層個別化を図るための工夫に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体機能に合わせ、安全に生活出来るように支援している		